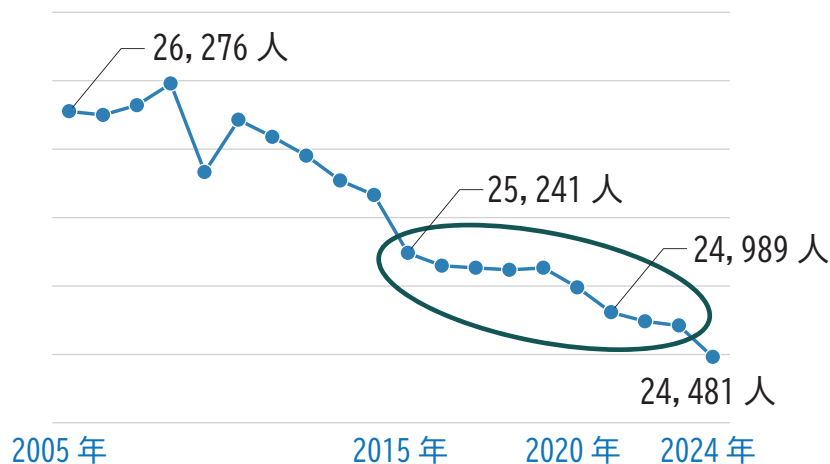


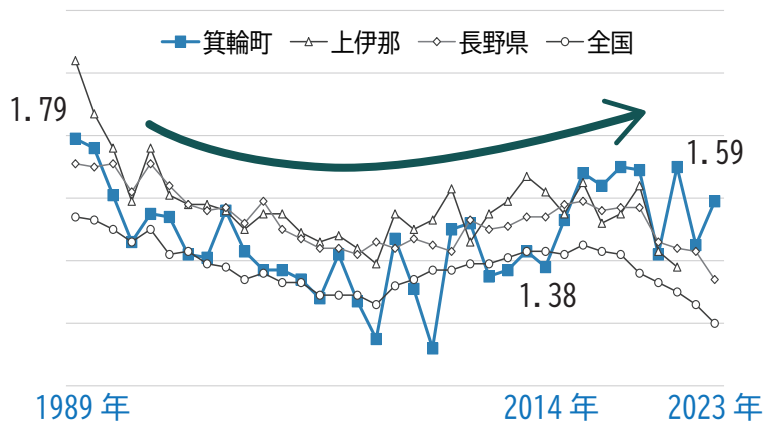
現状 近年の人口は横ばい 出生率は上昇傾向

計画書本編
P1～

人口の動き



出生率の動き



課題 今後も15歳未満は減少 65歳以上は増加

計画書本編
P11

懸念されること

- ・ 高齢者の増加に対する支え手の不足
- ・ 生産年齢人口の減少による税収減小
- ・ 働き手の不足
- ・ 空き家の増加
- ・ コミュニティの希薄化
- ・ 経済動向に左右される人口移動

さらに少子高齢化が進行した場合

- ・ 社会保障の増加
- ・ 行政サービスの提供困難
- ・ インフラの整備・維持困難
- ・ 企業の経営継続困難→税収減
- ・ 地域環境の悪化
- ・ コミュニティの継続困難
- ・ 景気低迷による人口減少の可能性

人口維持の主な要因

- ・ 合計特殊出生率の持ち直し：1.70（2018年）→1.42（2020年）→1.59（2023年）
- ・ 社会増（主に郡内・県内の転入超過）：+94人（2019-2023年の5ヵ年計）
- ・ 外国人住民の増加：773人（2018年）→794人（2023年）

人口減少の主な要因

- ・ 女性生産年齢人口の減少：▲148人〔6,887人（2020年）→6,539人（2024年）〕
（参考：男性生産年齢人口：▲105人〔7,376人（2020年）→7,234人（2024年）〕）
- ・ 死亡数の増加：257人（2019年）→297人（2023年）
- ・ 自然減：▲117人（2019-2023年の5ヵ年計）

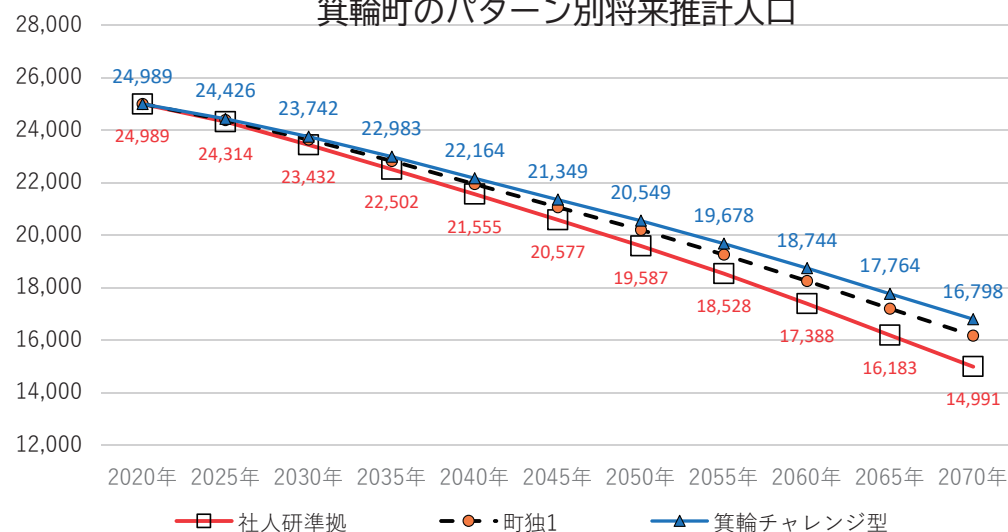
目標 出生数・転入者数の増加施策の実施で目標人口達成を

計画書本編
P13～

施策 「箕輪チャレンジ」により町の将来像の実現を

計画書本編
P20

箕輪町のパターン別将来推計人口



目標人口

2030年
23,700人程度

必要な事

- ・ 現在の暮らしやすさの維持
- ・ 出生数の増加
- ・ 転入者の増加
- ・ 転出者の増加

箕輪チャレンジにより、取り組む事

- 行政
 - ・ 人口減少を前提とした施策の展開
 - ・ まち・ひと・しごと総合戦略の展開
- 区・常会・町民
 - ・ 地域コミュニティの活性化
 - ・ 町民参画による協働のまちづくり

みんなで創る、未来につながる、
暮らしやすい箕輪町

基本目標① 未来を創る

計画書本編
P21～

働く場所に恵まれ安心して働けるまちを持続

■ 数値目標

昼夜間人口比率0.97（2015年）→1.0以上（2030年）
15～39歳の県外間社会増減数 △46人（2018年）→転入超過（2030年）

産業の振興	新分野の開拓支援	働く場所の確保
就農支援・人材育成 企業育成等	商談会等出展	経営相談等

基本目標② 未来に集う

計画書本編
P25～

関係人口の創出拡大、移住・定住の促進

■ 数値目標

関係人口を毎年100人増加
1,220人／年（2018年）→2,420人（2030年）

地域に愛着を持つ 人材の育成	関係人口策の推進 移住定住の推進	若者・女性に魅力 あるまちづくり
地域愛着の醸成	移住定住対策	若者意見の反映
特色ある教育	県内外へ情報発信	

基本目標③ 未来を育む

計画書本編
P29～

出産・子育て施策の推進

■ 数値目標

合計特殊出生率 1.59（2023年）→1.65（2030年）
生産年齢人口に対する年少人口の割合
22.8%（2018年）→21.6%以上（2030年）

交流の場の創出 婚活支援	出産・子育てへの 支援
サークル活動の 創出	子育て相談機能の 充実
婚活サポート	子育て環境の整備

■ 人口ビジョン

治体の人口の現状を分析し、将来的な人口減少や少子・高齢化社会の進展を緩和させるため、今後目指すべき将来の方向性と目標を示したものです

■ 総合戦略

人口ビジョンで示した目標を実現するための施策をまとめたものです

基本目標④ 未来に生きる

計画書本編
P32～

町の暮らしやすさを未来へ

■ 数値目標

町・住民満足度調査による「町での生活に満足」
71.9%（2018年）→75%以上（2025年以降）

徹底した安全・安心の推進	コミュニティの維持	健やかに暮らせる町の推進	未来につながる暮らしやすさ
町の安全・安心力を強化	集落等コミュニティ活動の確保	健康づくりの推進	新しい流れの導入
安全で利便性の高い社会基盤の整備		高齢者等、交通弱者への支援	地域間連携